

氏名	アラメマキ 新目真紀
学位の種類	博士(工学)
学位記番号	博第907号
学位授与の日付	平成25年9月4日
学位授与の条件	学位規則第4条第1項該当 課程博士
学位論文題目	社会活動を支援するコミュニケーションプラットフォームの 設計と運用に関する基礎的考察 (A Fundamental Study on Design and Operation of Communication Platform to Support Social Activities)
論文審査委員	主査 教授 秀島栄三 教授 小竹暢隆 教授 藤田素弘 准教授 伊藤孝行

論文内容の要旨

少子高齢化の進展に伴い公共サービスへの国民の期待が拡大すると予想される一方で、財政は厳しさを増していく事を勘案すると、これまで国や地方自治体といった行政（公共部門）が提供してきたサービスが従来通り維持されることは困難に近い。「新しい公共」を担うとされるボランティア活動やNPOなどの相互扶助的な活動に期待する上では、より実践に即した活動指針が求められる。社会変化によって生じた諸問題に対応する社会活動においては、一般的に多様かつ多面的な参加者による課題解決に向けた取り組みがなされるが、参加者が持つ情報には落差がある。既存の法律や制度に則る形式優先的なものであっては、多様な住民のニーズに必ずしも十分な対応ができていないといえない。これからの公的領域の形成には、これらのニーズの発生源である私的領域や社会的領域との柔軟な関係性の構築が鍵となり、それが、市民が新しい公共の担い手となるための第一歩となる。

本研究は、こうした課題を背景として、新しい公共を形成するために考慮すべき点を考察した。従来の「新しい公共」を担うコミュニティ形成に関する議論では、コミュニティを分析する視座が静的なものに留まっており、公的部門において、触媒的な機能を発揮することが求められても、具体的にどのような点を考慮すべきかについては不明なままであった。本研究では、触媒的な機能を果たすために必要となる社会基盤のひとつがコミュニ

ケーションプラットフォームであると考え、その設計や運用時の視座として社会構成主義アプローチを導入し有効性を検証した。本論文は以下6章で構成されている。

第1章では、特に新しい公共を巡るこれまでの取り組みを整理したうえで、現状の学区をベースとした地域コミュニティの形成事例や地域SNSを用いたコミュニティ形成事例から、コミュニケーションプラットフォームの必要性を示した。そして新しいコミュニティ形成に寄与するコミュニケーションプラットフォームの特徴や構造を明らかにするとともに、コミュニケーションプラットフォームを設計・運用する際に明らかにしなければならない視座を整理した。

第2章では、第1章で導出した市民の意識を育むとともに、個人の意識と新しい公共的領域とを相互的かつ動的に認識するメタ認知と社会的認知の支援に関する仮説を精緻化するとともに、仮説検証の方法を検討した。

第3章では、学習コミュニティの実践結果からメタ認知支援の有効性を検証した。新しいコミュニティに参加しても、コミュニティにおける課題を認識することができなければ問題解決に至ることはできない。検証の結果、コミュニケーションプラットフォーム上で、参加者の認知的特性を可視化することによって情意面からコミュニティへの参加を支援する事が可能になることが確認された。

第4章では、ある中学校における安全教育の実践結果からメタ認知の支援の有効性を検証した。シンプルな認知活動から、高次な認知活動に移る足場がけを用意することによって参加者は、新しいコミュニティにおいて主体的、自主的な参加を実現することが確認された。

第5章では、検証対象をコミュニティ間のネットワークに拡張し、コミュニケーションプラットフォーム上での社会的認知の支援の有効性を検証した。長い時間をかけて形成されたコミュニティでは一般的にコミュニティ独自の情報共有方法があり、構成メンバー間に何らかの信頼関係が築かれている。このため、新しいコミュニティの参加者との間では課題に関するコミュニケーションがステレオタイプの為され、社会構成主義的な相互作用を阻む可能性がある。本研究では、社会的認知の支援が結果的に他者や課題を認識するのに寄与することを確認した。

第6章では各章で確認した内容を総括するとともに、今後の課題と展望について述べた。

本研究により、コミュニティ形成に寄与する新たな手法としてのコミュニケーションプラットフォームのあり方について、本稿に示すような社会構成主義アプローチに基づく動的視座をもった設計と運用が有効かつ有益であることを明らかにした。

論文審査結果の要旨

都市化，核家族化，個人主義の浸透，地縁的な繋がり希薄化等に伴い，様々な課題が生じている。地域コミュニティの価値を再認識する必要があるとともに「新しい公共」と位置付けられる新たなコミュニティの形成・強化が期待されている。コミュニティとは「地域性」「共同性」を中心とする多義的な概念である。コミュニティ形成・強化の方策としてテーマ型コミュニティによる自主的な活動やコミュニティ間のネットワーキングによる連携，情報交換などがある。これらの取り組みによって，従来は自治体を実施してきた公共サービスについて住民団体やNPO など多様な主体が担い手となり得ることが実証されている。しかしながら公的部門において触媒的な機能が求められても，具体的にどのような点を考慮すればよいかについては不明なままであった。

本研究では，社会的な変化によって生じた諸問題に対応するために，「官」と「民」という二項対立的な枠組みではなく，諸主体による協働が重要と捉え，そのためには社会活動を支えるコミュニケーションプラットフォームを形成する必要があると考えた。多様かつ多元的な主体が言葉の意味や考えを共有し受諾できる共通基盤をコミュニケーションプラットフォームと呼ぶこととする。参加者が持つ情報には一般的に落差がある。異なる役割を持つ参加者の他者依存的な関係と，そこから生じる諸知識を無批判に受け入れるコミュニケーションを乗り越えていく必要がある。

本論文では上述の課題の解決に向け，従来，静的な議論に留まっていたソーシャルキャピタル論に基づくコミュニティ形成・強化に関する分析に，社会構成主義アプローチを援用し，動的な視座を導入し，どのようにすればコミュニケーションプラットフォーム上で参加者の「認知的」ソーシャルキャピタルを醸成できるかを，実践結果をもとに明らかにすることを研究目的としている。

本論文は全6章により構成されている。第1章では本研究の背景，必要性そして目的を述べている。第2章では，第1章で導出した，個人の意識と新しい公共的領域とを相互的かつ動的に認識するメタ認知と社会的認知の支援に関する仮説を精緻化するとともに，仮説検証の方法を検討した。第3章では，コミュニケーションプラットフォーム上で，参加者の認知的特性を可視化することによって情意面からコミュニティへの参加を支援する事が可能になることが確認された。第4章では，ある中学校における安全教育の実践結果から，高次な認知活動に移る足場がけを用意することによって参加者は，新しいコミュニティにおいて主体的，自主的な参加を実現することが確認された。第5章では，コミュニケーションプラットフォーム上での社会的認知の支援の有効性を検証した。長い時間をかけて形成されたコミュニティでは一般的にコミュニティ独自の情報共有方法があり，構成メンバー間に何らかの信頼関係が築かれている。このため，新しいコミュニティの参加者との間では課題に関するコミュニケーションがステレオタイプの為され，社会構成主義的な相互作用を阻む可能性がある。このことに対し，社会的認知の支援が結果的に他者や課題を認識するのに寄与することを確認した。第6章では各章で確認した内容を総括するとともに，今後の課題と展望について述べた。

このようにして本論文では，コミュニティ形成に寄与する新たな手法としてのコミュニケーションプラットフォームのあり方について，社会構成主義アプローチに基づく動的視座をもった設計と運用が有効かつ有益であることを明らかにした。

なお，本研究の内容は，土木学会論文集，情報処理学会情報教育シンポジウム論文集に掲載され，また，土木学会土木計画学研究発表会，情報処理学会等で発表されている。

以上により，本論文は博士（工学）の学位論文として価値あるものと認められる。